

一句単独の部

【優秀賞】

八月十五日アイスクリームの溶けていく
冬眠やぬいぐるみの目は開いたまま

伊藤 彰洋
佐藤 琳利子

【佳作】

チューリップ千本色を違へざる
トランペット触れた口から音涼し
角刈りの無料サービス冬ぬくし
過ぎる貨物列車の上に秋の空
流れ星囁みながら言う志望校
紙芝居抜く手しつかり日焼かな
瘡蓋の痒さがひどし梅雨の帰路

釜江 康太
斉藤 志桜
鈴木 萌晏
高橋 朱音
新美 陸人
藤井 万里
山之内 崇伸

複数句の部

【優秀賞】

日々の雫 野城 知里

鞆抱くバス待合所冴返る
陽炎に二十日鼠の駆けゆけり
手のひらに草餅光るまでまはす
恋人の唇うすし磯巾着
花冷えの雨の白さよ昼の鐘
褒められりわづかにかたき豆の飯
一切れの蛞蝓をりし窓辺かな
夕立ににんげんいろの影の消ゆ
たのしきは終はりあること苔の花
投函すサマードレスに風を混ぜ
雲に名をつけてみぢかき盆休
秋の蚊の軌跡の遅々としてをりぬ
眠たさに実石榴噛めば湧く雫
引き寄せる枝豆の皿までの腕
露時雨明るき丘に瞳四つ
空深く枇杷の大樹の咲きにけり
もう一度会ふ約束や根深汁
とりどりに聖誕祭の菓子甘し
オリオンの腰のやさしき光かな
順々にふくら雀の降りる竿